HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	コメント ： コロナ禍の十勝農業
Author(s)	町, 智之
Citation	フロンティア農業経済研究, 25(1-2), 36-38
Issue Date	2023-04-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98517
Type	journal article
File Information	25(1-2)_05_Machi.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

［フロンティア農業経済研究　第 25 巻第 1・2 号　2023.4］

コメント
－コロナ禍の十勝農業－

十勝農業協同組合連合会　**町　　智　之**

どうぞよろしくお願いします。十勝農協連の町と申します。まず今日参加されている皆様には、農協連の農産畜産はじめ様々な事業でお世話になっています。また企画室の事業でも、農家所得調査のほか、経営相談に用いる組勘見える化ツール、組勘指標値ツールの開発・推進など、十勝農試、それから帯広畜産大学の農業経済の先生方に大変お世話になりながら様々な事業を進めさせて頂いておりますことに、この場を借りまして感謝申し上げます。

さて、本日は現場からの報告として、コロナ禍の十勝農業について報告します。

お話する内容ですが、前半の十勝農業の概況は簡潔にお話したいと思います。メインは新型コロナウイルス感染症による影響です。最後に十勝農業の課題についても述べたいと思います。

十勝管内には 19 市町村、23 の農協があります。今年、十勝高島農協と十勝池田町農協が合併して 23 になりました。十勝の特徴ですが、耕種は米がなくて畑作の小麦、甜菜、馬鈴薯、豆類が中心です。畜種は生乳、肉用牛の生産が中心です。今は耕種畜産の比率は 4 対 6 になっています。農家戸数は 5,000 戸、平均経営面積は 43ha、乳牛の飼養頭数は平均で 200 頭という規模です。十勝管内農協取扱高が毎年 12 月に発表されますが、それによると 2020 年は 3,456 億円です。農業産出額とだいたい似たような数字になります。全国的に見ると農業産出額は、北海道に次いで鹿児島や茨城、千葉、宮崎、熊本といったあたりの順番になりますが、十勝はその宮崎、熊本あたりと同じぐらいの生産額になります。

特に畜産が近年、伸長しています。2020 年までの 10 年間の推移ですが、3,456 億円が 2020 年ですが、2019 年が過去最高の 3,549 億円、そして 2021 年は来月にまとまりますが、もしかすると過去の実績を超えた可能性があります。耕種部門は面積が限られているので、年によるということで、それほど増えてはいません。

農家数が減っていくと 1 戸当たり面積は増えていきます。先ほどの北見に関する第三報告にあったように、1 戸当たり面積が拡大していくにつれて手間のかからない作物が選択される傾向にあります。特に、十勝の場合、手間のかからない作物は小麦です。小麦は 2005 年に 4 万 6,000ha となってピークを迎え、その後 4,000ha ほど減っています。その代わり、大豆がこの 10 年間で 6,000ha 増えています。それからデントコーンも増えています。デントコーンは酪農家でも作付けが増えていますが、畑作農家でも委託栽培の形態で増えています。大豆にしてもデントコーンにしても、手間がかからず、収穫作業など外部に委託できるため、今後も作付けが伸びると予想されています。

では、新型コロナウイルス感染症の影響に移ります。2020 年に農協を対象にした聞き取り調査を行いどんな影響があるかを聞いたところ、挙げられたのは特定品目の売り上げ減少、労働力確保が以前より困難になった、資材や機械部品の調達遅れ、輸入部品の納入遅れ、また衛生管理対応の負担増加などです。農家段階では、農協職員が組合員の自宅に行けない、会合や研修会がなくなり、情報が入りにくくなったという話がありました。他には、報告でも指摘されていましたコロナ禍による食品への影響があります。業務用の需要が減って家庭用の需要が増える現象がさまざまな品目で生じています。十勝管内の規模の大きな農協で食品コンビナートを持っている農協では、減収だが増益という事態も起きています。要は業務用の利幅の低い販売が減り、利幅の高い販売に置

き換わったため、売り上げが減ったが利益は増えたわけです。

農家を対象としたアンケートの結果に移ります。十勝農業ビジョン 2026、すなわち 2026 年に向けた十勝農業のビジョンを現在、策定しているところです。2021 年 6 月に組合員アンケートを実施しました。管内農家の 1 割を対象に 500 枚ほど配布し、478 枚を回収しました。調査対象組合員の選定は、年齢順にそれぞれの農協で組合員を並べてもらい、10 人おきに抽出するという方法で行いました。抽出された経営形態が特殊な場合は、対象から除外しています。

その中で、まず、農業経営や営農に及ぼすコロナ禍の影響を一つ選んでもらいました。経営を維持する上で大きな影響があるとしたのが 28%。影響はあるけれども経営の見通しが立たないほどではないというのが 59%、影響は大したことないが 13% でした。その影響の内容は、集会や職員の農家訪問自粛により情報が入りづらくなったというのが一番多く 48%、資材や機械部品などの到着の遅れが生じることがあったというのが 47%、特定の品目の売り上げが減少した、それから、労働力の確保が以前より難しくなった、衛生管理への対応が大きな負担になっているという順番になってます。

売り上げが減少した品目を具体的に見てみましょう。括弧内は、その品目を記載した経営数です。まず、小豆が最も多く、62 経営です。豆類と書かれたのはおそらく小豆と思われます。他には、タマネギ、長いも、馬鈴薯、小麦、スイートコーン、ゆり根、そばなどと続きます。抽出数としては畑作農家が畜産より多く、畑作農家の中でも小豆というのは作っている経営が多いので、こういう結果になったと思われます。また、2020 年の農協への聞き取りでも、そばやゆり根、特にそばは外食で食べる機会が多いため、需要が大きく減少し、影響が特に顕著でした。

畜産については、和牛、肉牛で影響が出ていました。影響の内容やその他の記載では、以下のような指摘がありました。外食産業への影響、砂糖の動向、生乳の生産調整がどうなるか、それから資材価格と飼料価格の高騰、こういった影響への懸念でした。

次に、新型コロナウイルス感染症の影響に対する対策として農協や行政に期待すること、これは複数選択ですが、一番多かったのは、新型コロナの感染者が出た場合の対応で、これが 62% でした。それから新型コロナの予防等に関する費用助成が 30%、地方分散移住促進の取り組みによる消費拡大・雇用労働力の確保が 24%、そして同じ労働力の関係ですが、パラレルノーカーの増加などという回答がありました。そして具体的な記載例としては、農協関係団体職員が感染した際の情報開示、それから農協における新型コロナワクチンの職域接種、抗体検査の全員実施と費用助成、農業関連の従事者への感染対策、乳価の維持などが挙げられていました。

なお、農家へのアンケート項目にはありませんでしたが、外国人技能実習生に関しては、先ほどの報告にもあったように、2020 年は 4 月に入国予定の実習生が 12 月に入ってきました。十勝管内では 3 つの単協が監理団体として実習生受け入れをしていますが、そこからの情報によると、2021 年も実習生の入国は遅れており、12 月になるだろうとのことです。

新型コロナの影響については以上の通りですが、現在、十勝農業ビジョン 2026 の策定を行っている最中です。さまざまな課題の掘り起こし、設定に関する作業を進めているところです。そこでこれからの 5 年間、どういう方向性を目指すのか、先進的で持続可能な農業を目指すということで、ここに 3 つの課題を挙げました。

まず、スマート農業がさらに進展していく、これによって農業の手法や人の確保の仕方が大きく変わってくるでしょう。女性でもトラクターを運転して作業ができるなど、いろいろと変わってくるだろうということです。

次に、持続可能な農業環境に配慮した生産です。GAP や HACCP など安全安心の取り組みが当たり前になっていくでしょう。そして、酪農分野では過剰在庫を受けて、現在、生産抑制が検討されています。一方で、建築資材が高騰しました。また、糞尿対策では、バイオガスプラントの設置は売電の問題があり進まない点も、生乳生産の拡大

のネックになっています。

農家の経営規模拡大と経営手腕の向上も課題に挙げようと思っています。この点については、農家というよりは、徐々に農業経営が法人化、企業化してくる中で、それぞれの農家が経営手腕を磨いていくことが重要です。そのためには、私たち農協がどのように農家をサポートできるかが課題です。今後5年間、以上のような課題に取り組んでいこうと考えています。

最後に、聞き取りでは農地基盤整備に関わる問題を聞いていまして、借り入れ耕地の問題が顕在化してきています。現在、十勝管内では6万ha弱、全面積の25%ほどが借り入れ耕地になっています。この20年ぐらいで2万haほど伸びました。不可逆的な伸び方なのでどこかで制度を変えていかないと、基盤整備への投資が滞り、生産の足かせになりかねないと考えています。この問題は、訴える先が行政なのか、政治家なのかわからないですが、北海道農業経済学会でもこの問題を取り上げていただければと思います。

以上で報告を終わります。ありがとうございました。

追記：

なお、「十勝農業ビジョン2026」は完成し、2022年4月に十勝農協連ウェブサイトにて公開しました。ぜひご覧ください。

「十勝農業ビジョン2026」リンク
https://www.nokyoren.or.jp/wp/wp-content/uploads/2022/04/vision2026.pdf